S.Naka

THE SANKEI SPORTS HAI HANSHIN HIMBA STAKES 第68回 サンケイスポーツ杯 阪神牝馬ステークス（GⅡ）

	1着	2着	3着	4着	5着
本賞	55,000,000円	22,000,000円	14,000,000円	8,300,000円	5,500,000円
付加賞	994,000円	284,000円	142,000円		

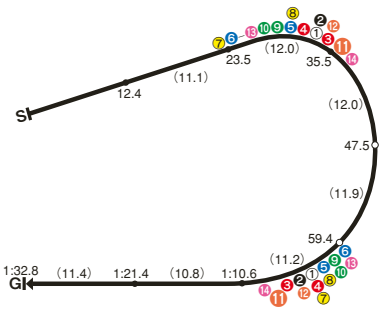
レース映像はコチラでご覧いただけます。

牝、4歳以上、除未出走馬および未勝利馬
負担重量　55*ﾛ、2024.4.6以降ＧⅠ競走1着馬2*ﾛ増、ＧⅡ競走1着馬1*ﾛ増、2024.4.5以前のＧⅠ競走1着馬1*ﾛ増（ただし2歳時の成績を除く）

2025.4.12　阪神　曇・良　芝1600ﾒｰﾄﾙ　（国際）（指定）

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム（着差）	コーナー通過順位	上り（600ﾒｰﾄﾙ）	馬体重（増減）	単勝オッズ	調教師	レーティング
1	⑪	サフィラ	牝4	55	松山弘平	1:32.8	2-2	33.3	464(±0)	29.7⑨	池添　学(栗東)	109
2	①	アルジーヌ	牝5	55	幸　英明	ハナ	5-6	33.0	464(+12)	6.2③	中内田充正(栗東)	108
3	⑨	ラヴァンダ	牝4	55	岩田望来	ハナ	10-11	32.7	482(−2)	19.1⑧	中村直也(栗東)	108
4	②	ビヨンドザヴァレー	牝5	55	菱田裕二	¾	5-4	33.3	474(+2)	15.3⑥	橋口慎介(栗東)	106
5	⑩	ボンドガール	牝4	55	武　豊	アタマ	11-11	32.9	448(−8)	2.5①	手塚貴久(美浦)	
6	④	ソーダズリング	牝5	55	坂井瑠星	1	7-6	33.3	468(−4)	9.7⑤	新谷功一(栗東)	
7	③	タガノエルピーダ	牝4	55	団野大成	クビ	3-3	33.6	458(−8)	5.5②	斉藤崇史(栗東)	
8	⑤	ドゥアイズ	牝5	55	鮫島克駿	アタマ	8-9	33.2	484(±0)	16.6⑦	庄野靖志(栗東)	
9	⑥	ドナベティ	牝4	55	藤岡佑介	½	13-13	33.0	428(−2)	300.2⑭	矢作芳人(栗東)	
10	⑬	ウンブライル	牝5	55	A.シュタルケ	½	12-13	33.1	476(−14)	36.8⑩	木村哲也(美浦)	
11	⑧	キミノナハマリア	牝5	55	M.デムーロ	ハナ	8-9	33.4	506(−8)	87.6⑫	千田輝彦(栗東)	
12	⑦	スウィープフィート	牝4	55	横山典弘	クビ	14-6	33.6	488(−2)	7.2④	庄野靖志(栗東)	
13	⑫	ヒルノローザンヌ	牝6	55	池添謙一	1½	3-4	34.0	478(−12)	266.6⑬	西村真幸(栗東)	
14	⑭	イフェイオン	牝4	55	北村友一	3	1-1	34.8	486(+4)	47.4⑪	杉山佳明(栗東)	

単勝⑪2,970円（9ﾍﾝｷ）　複勝⑪770円（9ﾍﾝｷ）　①270円（3ﾍﾝｷ）　⑨560円（8ﾍﾝｷ）　枠連①-⑦7,850円（23ﾍﾝｷ）
馬連①-⑪8,640円（28ﾍﾝｷ）　ワイド①-⑪2,370円（28ﾍﾝｷ）　⑨-⑪6,670円（54ﾍﾝｷ）　①-⑨1,580円（21ﾍﾝｷ）
馬単⑪-①23,880円（72ﾍﾝｷ）　3連複①-⑨-⑪39,970円（113ﾍﾝｷ）　3連単⑪-①-⑨362,400円（780ﾍﾝｷ）



通過タイム：600ﾒｰﾄﾙ 35.5 - 800ﾒｰﾄﾙ 47.5 - 1000ﾒｰﾄﾙ 59.4　上り：800ﾒｰﾄﾙ 45.3 - 600ﾒｰﾄﾙ 33.4

アラカルト

- 松山弘平騎手はサウンドキアラで制した20年に続く阪神牝馬Ｓ２勝目。ＪＲＡ重賞は本年初勝利、通算49勝目
- 池添学調教師は阪神牝馬Ｓ初勝利。ＪＲＡ重賞は本年初勝利、通算14勝目
- ハーツクライ産駒はＪＲＡ重賞通算88勝目
- 4歳馬の勝利は23年サウンドビバーチェ以降3年連続、通算24回目
- アルジーヌの西村淳也騎手は負傷のため幸英明騎手に変更
- サフィラはヴィクトリアマイル（ＧⅠ）に優先出走できる

サフィラ *Safira*

牝　黒鹿毛　2021.2.1生
北海道安平町　ノーザンファーム生産
馬主・㈲シルクレーシング　栗東・池添学厩舎
馬名意味・サファイア（ポルトガル語）。宝石言葉は「成功」

サロミナGER系　F16-c

ハーツクライ 鹿毛　2001	サンデーサイレンスUSA 青鹿毛　1986	Halo
		Wishing Well
	アイリッシュダンス 鹿毛　1990	トニービンIRE
		ビューパーダンスUSA
サロミナGER Salomina 鹿毛　2009	Lomitas 栗毛　1988	Niniski
		La Colorada
	Saldentigerin 鹿毛　2001	Tiger Hill
		Salde

5代までのインブリード：Northern Dancer S５×M５

INTERVIEW

山根健太郎厩舎長（ノーザンファーム早来）

能力があることを証明できてホッとしています

育成時は同時期に管理をしていたチェルヴィニアと同等の評価をしていました。ただ、クラシックで活躍をした同世代の馬たちが、２歳から３歳にかけて著しい成長を遂げた一方で、この馬は成長曲線がゆったりだったのでしょう。昨年末からは馬体重も安定しており、レースからも充実度がうかがえました。能力があることを証明できてホッとしています。

父ハーツクライ

北海道千歳市　社台ファーム生産　中央、首、英19戦５勝（ドバイシーマクラシック・首^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ、京都新聞杯^{G}Ⅱ）、最優秀４歳以上牡馬、07年から供用、21年引退、23年死亡。19年日本リーディング２位

〔代表産駒〕**ドウデュース**（日本ダービー^{G}Ⅰ、ジャパンC^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ、天皇賞（秋）^{G}Ⅰ、朝日杯フューチュリティS^{G}Ⅰ）、**リスグラシュー**（コックスプレート・豪^{G}Ⅰ、宝塚記念^{G}Ⅰ、有馬記念^{G}Ⅰ）、**ジャスタウェイ**（ドバイデューティフリー・首^{G}Ⅰ、天皇賞（秋）^{G}Ⅰ、安田記念^{G}Ⅰ）、**ヨシダJPN** Yoshida（ウッドワードS・米^{G}Ⅰ、ターフクラシックS・米^{G}Ⅰ）、**ワンアンドオンリー**（日本ダービー^{G}Ⅰ）、**ヌーヴォレコルト**（オークス^{G}Ⅰ）、**スワーヴリチャード**（ジャパンC^{G}Ⅰ）、**シュヴァルグラン**（ジャパンC^{G}Ⅰ）、**サリオス**（後出）、他に重賞勝ち馬多数

母サロミナGER

独、仏５戦４勝（独オークス^{G}Ⅰ、ハンブルク牝馬賞・独^{G}3）、13年輸入

サロニカ（14 牝父ディープインパクト）中央11戦２勝（エルフィンS^{OP}）

サラキア（15 牝父ディープインパクト）中央20戦４勝（アイルランドトロフィー府中牝馬S^{G}Ⅱ、小倉日経オープン^{OP}、青島特別、有馬記念^{G}Ⅰ２着、エリザベス女王杯^{G}Ⅰ２着、ローズS^{G}Ⅱ２着、エプソムC^{G}Ⅲ２着）

サラミス（16 牝父ディープインパクト）中央８戦０勝、地方１戦１勝

サリオス（17 牡父ハーツクライ）中央14戦５勝（朝日杯フューチュリティS^{G}Ⅰ、毎日王冠^{G}Ⅱ２回、サウジアラビアロイヤルC^{G}Ⅲ、日本ダービー^{G}Ⅰ２着、皐月賞^{G}Ⅰ２着、安田記念^{G}Ⅰ３着）、香１戦０勝（香港マイル^{G}Ⅰ３着）、種牡馬

エスコーラ（18 牡父ディープインパクト）中央10戦４勝（不知火S、国立特別、リゲルS・L３着）

サリエラ（19 牝父ディープインパクト）中央12戦３勝（白富士S・L、ローズS^{G}Ⅱ２着、ダイヤモンドS^{G}Ⅲ２着、目黒記念^{G}Ⅱ３着）

（20 牡父ハーツクライ）

サフィラ 本馬（21 牝父ハーツクライ）中央11戦３勝（阪神牝馬S^{G}Ⅱ、アルテミスS^{G}Ⅲ２着）獲得総賞金104,144,000円

サリーチェ（22 牝父ドゥラメンテ）中央６戦１勝 ㊙

サリエンテ（23 牝父キズナ）

（24 牝父サートゥルナーリア）

祖母ザルデンティゲリン Saldentigerin

ドイツ産　伊、独、仏３勝（バーデンヴュルテンベルクトロフィー・独^{G}3、ジャンハルツハイムレンネン・独L、オイロパ賞・独^{G}1２着、独オークス^{G}1３着）、**ザルト** Salut（カジノバーデンバーデン賞・独L、伊セントレジャー^{G}3２着）の母

満開の桜のもとで良血開花宣言！

ヴィクトリアマイルの前哨戦・阪神牝馬Sの主役と目されたのは「現役最強の1勝馬」とも呼ばれるボンドガール。前2走の秋華賞、東京新聞杯をはじめ、重賞2着を5回記録している実力馬が断然の支持を集めた。3勝クラスを勝ち上がったばかりとはいえ、GⅠ（朝日杯フューチュリティS）3着の実績を持つタガノエルピーダ、暮れのターコイズSで重賞初制覇を果たしたアルジーヌがこれに続いたものの、勝利の女神が微笑んだのは3勝クラスから格上挑戦で臨んできた伏兵。9番人気のサフィラが横一線の接戦に競り勝ち、良血開花を宣言した。

好スタートを切ったタガノエルピーダを、イフェイオンがかわして主導権を握ったレースは落ち着いた流れで進行。サフィラの松山弘平騎手は2番手につけ、直後のインにタガノエルピーダ、2馬身ほど後ろにアルジーヌが続く。一方、後方で末脚を温存したボンドガールは4コーナーから進出を開始。しかし馬群の外々を回って追い上げる厳しい形を余儀なくされた。

そんな本命馬を尻目に松山騎手は、直線に向くとイフェイオンを早めに競り落として先頭へ。背後で脚を溜めていたアルジーヌ、ビヨンドザヴァレーに迫られても頑として譲らずに坂を駆け上がる。ゴールの寸前、後方からラヴァンダも強襲。勝負の行方はもつれたが、息の長い末脚と勝負根性を振り絞ったサフィラが「ハナ＋ハナ差」の激戦を制した。

アルテミスSで2着に食い込み、阪神ジュベナイルフィリーズでは1番人気に支持された（4着）本馬だが、3歳の春は伸び悩み、秋初戦のローズSも11着に沈んだ。それでも条件戦から再出発すると2勝クラスは2戦で卒業。昇級初戦の斑鳩Sはタガノエルピーダの3着に敗れたものの、陣営は次戦の矛先を重賞に向けた。この決断が大きく結実。「全14世代連続のJRA重賞制覇」を成し遂げたハーツクライのラストクロップが、独オークス馬サロミナを母に持つ良血を開花させ、満開の桜のもとで初の勲章を獲得した。

N.Inaba